



TITLE:

新刊紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

新刊紹介. 天界 1937, 17(194): 312-312

ISSUE DATE:

1937-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167474>

RIGHT:

---

 新 刊 紹 介
 

---

理學博士 荒木俊馬著 「天文と宇宙」 定價2圓80錢 恒星社發行

博士は我國理論天體物理學の權威で、本書はその最近著である。大阪毎日新聞に徳富蘇峰翁の批評があつたので此處にその一部を轉載する。

「天文と宇宙」は素人の我等に取りても面白く且つ有益に一讀することが出来た。それは恐らくは著者の解説が、對人說法の妙を得た爲めであらう。本書は先づ「天文學の起源」を説き、「學藝復興と近世天文學の黎明」に及び、進んで「天文學の基礎知識」を語り、それより「現代の宇宙觀」、「星辰進化の問題」、「太陽の黒點」、「星辰の内部構造」等を述べ、而して「宇宙構造論」に至り、漸く本書を結んでゐる。本書は當初より豫じめ一書を作す可く著はされたるものでなく、隨時隨所の寄稿、講演等を蒐め來りたるものなるに拘らず、如何にも能く順序が立ち、首尾が貫通し、殆んど補綴の痕跡を認めないほどに、全體を作してゐる。(中略)著者が「世に最も無用な學問として、天文學を擧げるものがあるが、その誤れる見解なるは、通俗天文書の一頁を繙いた事のあるものは明かであらう。日々の時計の管理、曆の編纂、航海及び測地等に於ける天文學の必要不可欠に就いては、茲に改めて論ずる迄もあるまい」と言うたのは、如何にもその通りだ。(中略)支那では陶淵明の如きは「俯仰終宇宙。不樂復何如」と歌うて、宇宙を我が樂園でもあるかの如く看做してゐる者もある。我等も亦人生の齟齬に囚はれ、鬱屈したる際には、偶ま頭を擧げて天上の星を眺め、所謂、陶淵明の氣持となる場合もある。斯る際には、本書の如きは、所謂實用ばかりでなく、亦我等に取りては、一種精神の食糧たらずんば、その食量を盛る要器である可き價值が、自から存するものと認むる。——蘇峰翁の文は以上の通り、會員諸氏の必讀をお奨めする。

---

「草場恒星圖」 定價50錢 東亞天文協會發行

古賀恒星圖より星數も増し、5133星が含まれてゐる。星座の境界も新境界線に依つたモダンなものであるが、只銀河の印刷にインキが濃過ぎた爲め、少し感じの悪いものとなつた。解説書が添附されてゐる。